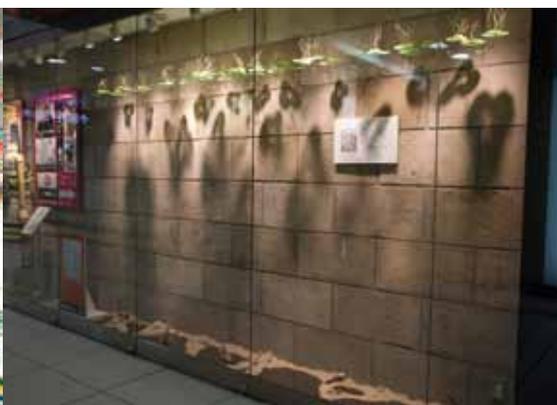




キジマ真紀(ルミネ池袋)



キジマ真紀(池袋消防署)



新野 洋(エチカ池袋)

第8回新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館

『回遊DeArt 2013』展示レポート

会期:5月16日(木)~29日(水)

会場:ルミネ池袋、エチカ池袋、池袋消防署、東京芸術劇場

【参加作家】

磯崎真理子、稲葉友宏、キジマ真紀、桑田朋以、新野 洋

5月の心地よい季節に開催となった回遊美術館。かつての池袋モンパルナスの精神を今に受け継ぎ、文化芸術資源を次世代に伝えていくことを目的とした本企画は、今までは池袋モンパルナスの中心人物である画家「小熊秀雄」等いわば過去の作家に焦点を当てて開催されてきたが、芸術の街としての歴史を現代に伝えるだけでなく、今を生きる若手作家を巻き込み新たな池袋モンパルナスを創っていくというところで、今年より新企画「回遊DeArt」が開催されることになった。

その一回目となる今回は、アートプロデューサー北川フラム氏が総合ディレクションを行い、5名の現代作家が選ばれた。

ルミネ池袋、および池袋消防署に設置されたキジマ真紀の作品は、ポリ袋などの日用品を素材と

して制作された花や植物を模した造形作品で、そのポップな色彩や形状は展示されたルミネ池袋の商業空間と不思議な一体感をもたらし、かつ、作品の存在により空気感が変化に富む素晴らしいものであった。

また消防署会場は、あまり足を運ぶ機会の少ない場所であり、その空間に、キジマ作品が展示されたことで、場所が有機性を帯びていた。

西口のエチカ地下通路のショーウィンドウ内という限定された空間で、行き交う人々の歩行から生じる風を受け、ゆらゆらと震えていたのが、新野洋の作品である。繊細で、創造性に満ちたその作品は、新種の植物であるかのようなリアルさを通りゆく人々に感じさせてくれるものであった。

東京芸術劇場地下1Fの広いスペースであるロワー広場に配置された磯崎真理子の作品は、本

企画の中でも際立って大胆な展示であった。大地の色をコンセプトとしたロワー広場に、無数のレモン色の花が咲いたその空間は、まるで夜空に無数の星が散らばるような詩情を湛え、さらに同空間に設置された稲葉友宏及び桑田朋以の動物作品は、そこに生きる主のような佇まいで、訪れる人々をじっと見つめているようだった。

魅力的で、力のある造形作品を設置したことで、変化する空間の強度や質を感じられること自体、とてもエキサイティングだ。このような企画を通して池袋西口周辺の魅力を再認識してもらい、人々に、より愛着をもってもらえる場所として、劇場を含めた地域環境を豊かなものにしていきたいと切に思う。

東京芸術劇場スタッフ



磯崎真理子(東京芸術劇場)



稲葉友宏(東京芸術劇場)



桑田朋以(東京芸術劇場)



桑田朋以(東京芸術劇場)